

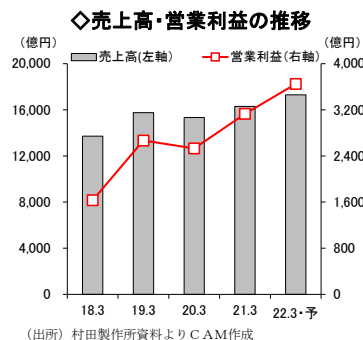
# 企業ニュース 村田製作所

(東証1部：6981) <https://corporate.murata.com>

作成者：村上大志

## 総合電子部品メーカー大手

1944年創業。積層セラミックコンデンサ（以下MLCC）で世界シェア約40%の総合電子部品メーカー大手。無線信号の中から必要な信号だけを取り出す表面波フィルタなどの通信部品でも高いシェアを持つ。材料から製品までの一貫生産体制を構築し、電子部品材料をはじめ高周波や回路の設計、薄膜・微細加工といった基板技術を独自に開発・蓄積していることが強み。主力のMLCCは通信向けでは小型大容量化を、自動車向けでは高信頼性かつ高温高湿対応を進めている。21.3期の製品別売上高構成比はコンデンサ38%、圧電製品8%、その他コンポーネント24%、モジュール30%。なお、10月1日から日経平均株価の構成銘柄に採用されることが発表されている。



## カーエレクトロニクス向けが好調、受注残高は過去最高

22.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が4,396億円、前年同期比35%増、営業利益は1,051億円、同105%増。生産高増加に伴う高い操業度やコストダウンの推進などにより大幅な増益を達成、営業利益率は同8.2ポイント上昇し23.9%となった。自動車の生産台数回復に加え、今後の生産増に備えた顧客の電子部品の取り込みによりカーエレクトロニクス向けが好調だったほか、PCやスマホ向けも堅調だった。製品別ではMLCCが自動車やスマホ向けで増加し、業績をけん引。受注残高は4,907億円、同13%増で過去最高となった。

22.3期の会社計画は売上高が1兆7,300億円、前期比6%増、営業利益が3,650億円、同17%増。カーエレクトロニクス向けやPC及び関連機器向けの需要増により、売上高で700億円、営業利益で450億円の上方修正を行った。半導体不足による部品全体の調達リスクから、先行的な部品の取り込みが起こっている。従来はその影響で下期にかけ需要が減少するとの見方だったが、顧客側の適性在庫水準が上昇しているとのことで、過度な懸念は不要であろう。中華系スマホ向けでは第2-3四半期にかけダウントレンドに入るが、新機種の上立ちがりに合わせ年末にかけ需要復調を想定している。

### [株価動向・投資判断]

電子部品需要は旺盛で供給能力の高い同社への発注が増加しており、業績拡大が期待できよう。

<6981 村田製 業績:米国基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,534,045 (▲3)	253,247 (▲5)	254,032 (▲5)	183,012 (▲12)	286.1	97.00
21.3	1,630,193 (6)	313,240 (24)	316,417 (25)	237,057 (30)	370.5	115.00
22.3 予	1,730,000 (6)	365,000 (17)	367,000 (16)	271,000 (14)	423.6	120.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価 (2021/9/10)	10,345 円
年初来高値 (高値日)	10,835 円 (21/1/27)
同 安値 (安値日)	7,994 円 (21/5/13)
予想 P E R (22.3 予)	24.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3,071.5 円
P B R	3.37 倍
予想配当利回り	1.16 %
(1株当たり配当金年120.00円)	
R O E (21.3)	13.1 %
発行済み株式数	67,581 万株